



2025 モータースポーツ ニュース

MOVING YOUR WORLD





鈴鹿 8 耐

Silkolene サポートチーム 全員完走、シード権を獲得

今年の鈴鹿 8 耐では、Silkolene がサポートする 3 チームが全て完走という素晴らしい結果を残した。DOG HOUSE & TRIPOINT FUCHS Silkolene は現行ルールになって以来、初のシード権を獲得。個人チームとしての挑戦が、確かな成果へとつながった。

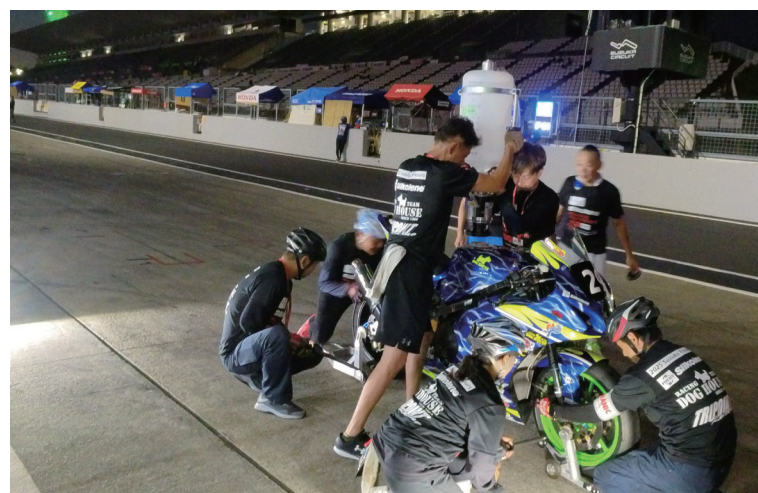
昨年度クラス優勝を果たした TONE Team 4413 EVA 02 BMW。惜しくも

2 連覇は逃したが、堂々のクラス 2 位。安定した走りやチーム力が光った。Wójcik Racing Team #777 SST は新しいメンバー構成で挑み、見事に完走。チームの柔軟性と結束力で 8 時間を乗り越えた。

それぞれのチームが異なる背景と戦略を持ちながら、8 時間という過酷なレースを走り切り、見事チェッカーを受けた 2025 年度。そしてまた来年、この 3 チームは鈴鹿の舞台で新たなドラマを生み起こすことが約束されている。

TONE Team 4413 EVA 02 BMW マシン：BMW M1000RR/ チーム使用オイル：
FUCHS Silkolene Pro 4 Plus
Wójcik Racing Team #777 SST マシン：Honda CBR1000RR/ チーム使用オイル：
FUCHS Silkolene Pro 4 Plus





鈴鹿 8 耐

Silkolene サポートチーム 全員完走、シード権を獲得

個人チームとして 8 耐に挑み続ける DOG HOUSE & TRIPOINT FUCHS Silkolene。FUCHS Silkolene と 8 耐を走り始めてから 3 年目となる。初年度の完走から始まり、昨年度はプライベーターの壁とも言われている 200 周

を突破。そして、今年は総合 27 位、EWC クラス 18 位でチェッカーを受けた。この素晴らしい結果により、現行ルールになって以来、初のシード権を獲得。努力が着実に結果として現れている。

チームの結果は総合 32 位、ラップ数はプライベーターの壁とも言われている 200 周を突破した。

「あの暑さの中の耐久レースはサバイバルゲームだった」と岩谷選手は振り返る。例年、その苛烈さを増す酷暑の中で、プロチームですら転倒、リタイアが目立った。選手たちは「まずは無事に終わって安心」と口を揃える。「タイヤが削れていくにつれて跳ねる挙動があり、ペースを上げづらかった。サスペンションの硬さで調整していくが、交代時に伝えて調整する時間はない。ひとまず次のライダーに伝えて、その後メカニック達に伝える。つまり、都度 1 ステントごしの調整だった」と岩谷選手。ライダーのテクニックとチームの連携が繋いだ完走であった。

「とにかくしんどかった」としつつも「みんな無事に走り切れて嬉しい」と素直な心境を述べた左村選手。大須賀選手は「完走できたのは嬉しい。自分は

まだまだ速くなる必要があると思った。もっと練習を重ねて、技術を磨きたい」と前向きなコメントを寄せた。





マシン：SUZUKI GSX-R1000R
使用オイル：FUCHS SILKOLENE PRO 4 PLUS

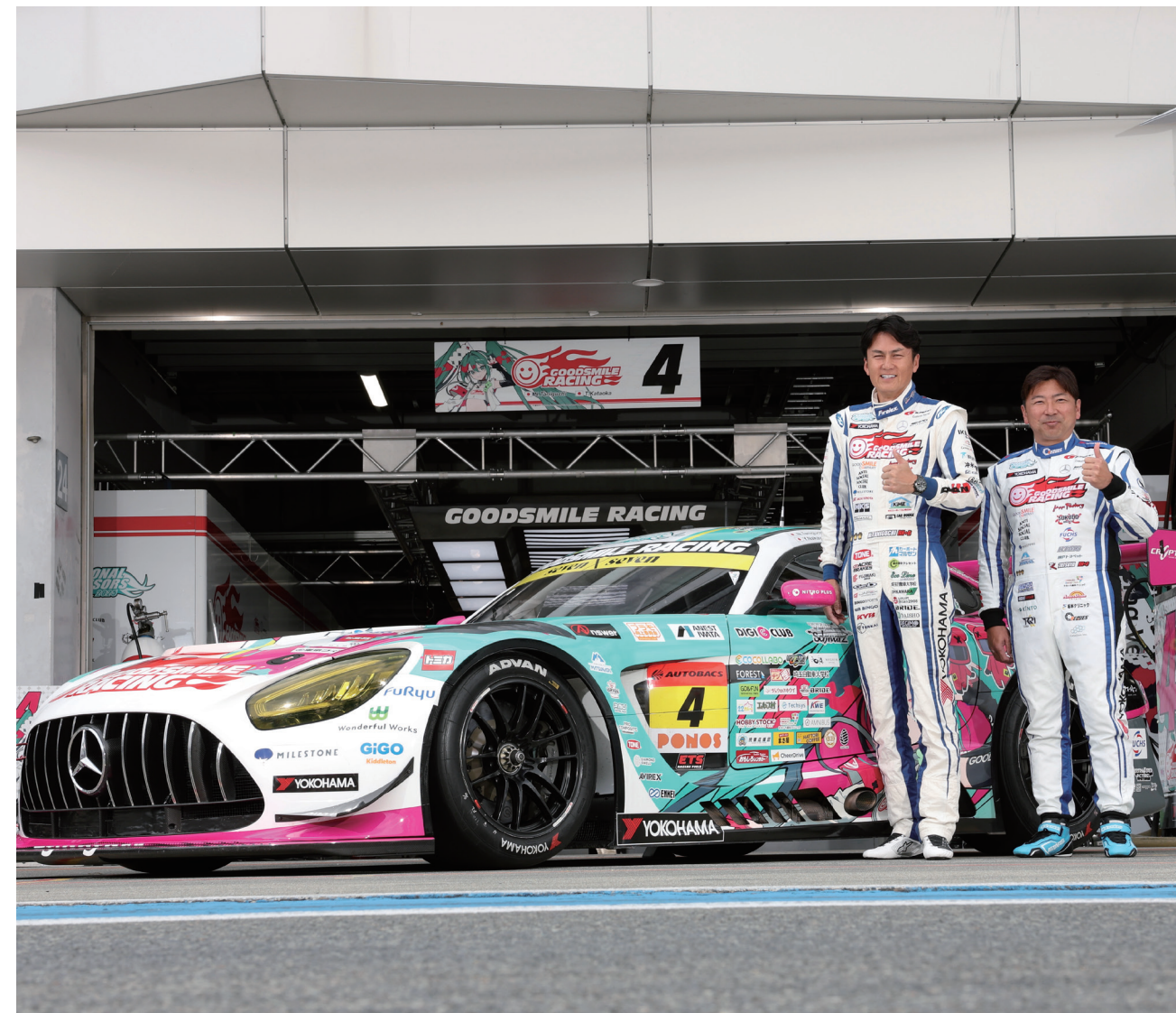




SUPER GT

GOODSMILE RACING タイトルに一步届かず 速さを示しチームランキング 3 位

GT300 を走る GOODSMILE RACING & TeamUKYO。2025 シーズンはチームランキング 3 位・ドライバーランキング 5 位という結果でトップチームとしての存在感を示した。



開幕戦岡山では 2 年ぶりポールポジションを獲得。決勝ではウェットコンディションに翻弄されるも 4 位の好発進であった。第 3 戦のセパンではスパ 24 時間参戦で不在の谷口・片岡コンビの代わりの中山友貴選手、奥本隼士選手が見事にレースを魅せた。終盤の激しいバトルを制し、3 位表彰台を獲得。チーム力の高さを証明した。その後も上位で激しいタイトル争いを繰り広げ、チームランキング首位を守りながら、ライバルチームとはポイント僅差で迎えた最終戦。予選 6 位から決勝 8 位でフィニッシュするも、ライバル勢が上位に入り、惜しくもチームタイトルを逃した。

2025 年の GOODSMILE RACING は、開幕戦ポール獲得やセパンでの代役表彰台など、見どころの多いシーズンを展開。タイトルにはあと一步届かなかったが、速さと粘り強さを示し、ファンを魅了した一年だった。さらに、スパ 24 時間など国内外での活動を広げた一年でもあり、ファンとの絆をさらに深める取り組みでモータースポーツ界を盛り上げた。

マシン：AMG GT3
チーム使用オイル：FUCHS TITAN SUPERSYN Longlofe, SINTOPOID LS, FRICOFIN DP



SUPER GT PONOS RACING 挑戦の一年、次への布石



SUPER GT GT300 クラスを始め、様々なカテゴリーに挑戦を続ける PONOS RACING、今年度はFerrari 296 GT3で挑んだ2年目のシーズンだった。年間結果はチームランキング 14 位と課題は残るが、鈴鹿での 4 位や富士でのトップ 10 入りなど、随所に躍進を感じさせる走りで注目を集めた。今年度推進した独特なカラーリングとFerrariならではの流麗なフォルムが際立ち、SUPER GT の中でもひとときスタイリッシュな存在感を放つ。PONOS RACINGは、サーキットに新しい風を吹かせ、ファンを魅了している。

マシン：FERRARI 296 GT3
チーム使用オイル：FUCHS TITAN RACE PRO S, SINTOPOID LS, FRICOFIN DP

鈴鹿サンデーロードレース 得意の雨で堂々ポイント獲得



鈴鹿サンデーロードレースのシーズンファイナルが 11 月 9 日、NGK 杯として開催された。秋晴れの予選から一転、本戦は激しい雨に見舞われた。ライダー達の技量がより試されるウェットコンディションで、FUCHS Silkolene がサポートする左村選手が魅せた。雨と水しぶきで視界が奪われ、多くのライダーは慎重な走りを見せたが、コースを熟知する鈴鹿のベテランは猛進。愛称である「サミー」のコールの中、7 位でチェッカーを受け、ポイント獲得となった。予選 18 位から順位を上げる姿は、会場を湧かせた。

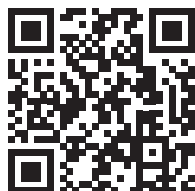
マシン：SUZUKI GSX-R1000R
使用オイル：FUCHS SILKOLENE PRO 4 PLUS





フックスジャパン株式会社
〒105-0001
東京都港区虎ノ門5丁目12-1
虎ノ門ワイコービル 5F
Phone: (03) 3436 8303
Fax: (03) 3436 8301
Mail: info.jp@fuchs.com
<https://www.fuchs.com/jp/ja/>

HP:



Instagram:



Facebook:

